

第3章

良好な景観形成に関する基本方針

1. 景観形成の基本理念
2. 町全域の景観形成の目標
3. 町の景観構造
4. 景観ゾーン・景観拠点・景観軸の設定
5. 景観形成基本方針
6. 景観形成重点地区の設定



第3章 良好な景観形成に関する基本方針

1. 景観形成の基本理念

古くからの景勝地として親しまれてきた大洗町には、変わらぬ自然の美しさ、これまでの歴史や営みが垣間見られる場所が数多く点在しています。特に、高台から見下ろす海と街並みが融合する景観は、観光資源としての活用が期待されています。

今後は、大洗町らしい景観を活かして町を「しつらえ」、町全体で多くの人を「おもてなし」することを景観形成の基本理念としていきます。

大洗町の景観を「しつらえる」

大洗町を取り巻く海や川、緑などの雄大な自然、景勝地を有効に活用し、市街地の近代的な建物や人工物を調和させ、大洗町らしい自然と人の営みのバランスのとれた景観を「しつらえ」、景観により住む人も訪れる人も感動できる心地よい空間を整えていきます。

町全体で「おもてなし」

大洗町全体に点在する景勝地を活かし、町全体で訪れる人が楽しめる「おもてなし」を演出します。また、単に良好な景観を創るのではなく、町民・企業・行政等が協働で、楽しみながらより良い「おもてなし」に取り組み、景観づくりを通じて、事業活動の活性化や地域の賑わいづくりに繋げるまちづくり（景観まちづくり）を進めます。



2. 町全域の景観形成の目標

これまでの計画等を踏まえて、町全体の景観形成について、次のような目標を設定します。

大洗の海が育む「自然」と「暮らしの営み」を活かし 地域全体で迎える「おもてなし」景観づくり

■海・水辺・緑と親しむ「自然」景観づくり

大洗町は、海や涸沼、那珂川といった豊富な水辺に囲まれ、古くから景勝地として親しまれてきました。変わらぬ海の美しさ、地形が生み出す斜面緑地、涸沼湖畔の低地部に広がる田園と集落の風景などは、今後も守り伝えていくべきものであり、さらには景観資源の一つとして有効に活用することが期待されています。今後は、町を取り囲む海や河川、緑などの景観を保全していくとともに、これらの自然風景を活かす景観づくりに取り組みます。

■心地よく、どこか懐かしい「暮らしの営み」景観づくり

大洗町は、海辺や河川・湖岸沿いに広がる低地部と、鹿島台地の丘陵部とで構成され、生活空間である市街地は丘陵部に拡大しつつあります。住宅地や商店街などの何気ない生活空間においても、人が心豊かに気持ちよく暮らせる町、暮らしたくなまちづくりを進めます。また、町の中には、漁港や魚市場、加工所などの大洗らしい海の暮らしが今も息づいています。自然とともに、人の営みにより築かれてきたどこか懐かしい風景も地域の景観資源として守り伝えていくことを目指します。

■大洗町の文化・魅力を発信する、「おもてなし」景観づくり

大洗町は、海という大きな観光資源により、毎年多くの観光客が訪れます。「神磯鳥居」「大洗磯前神社」「海辺の朝日」のように海辺には数々の自慢できる風景が存在するだけでなく、町の中には、商店街、歴史ある建物、細い路地等、趣を感じる風景も残っています。今後は、従来の観光スポットだけでなく、町の中心となる駅周辺や街なかに残る何気ない風景の中にも町の文化や見どころを演出し、訪れてみたくなる景観づくりを進めます。

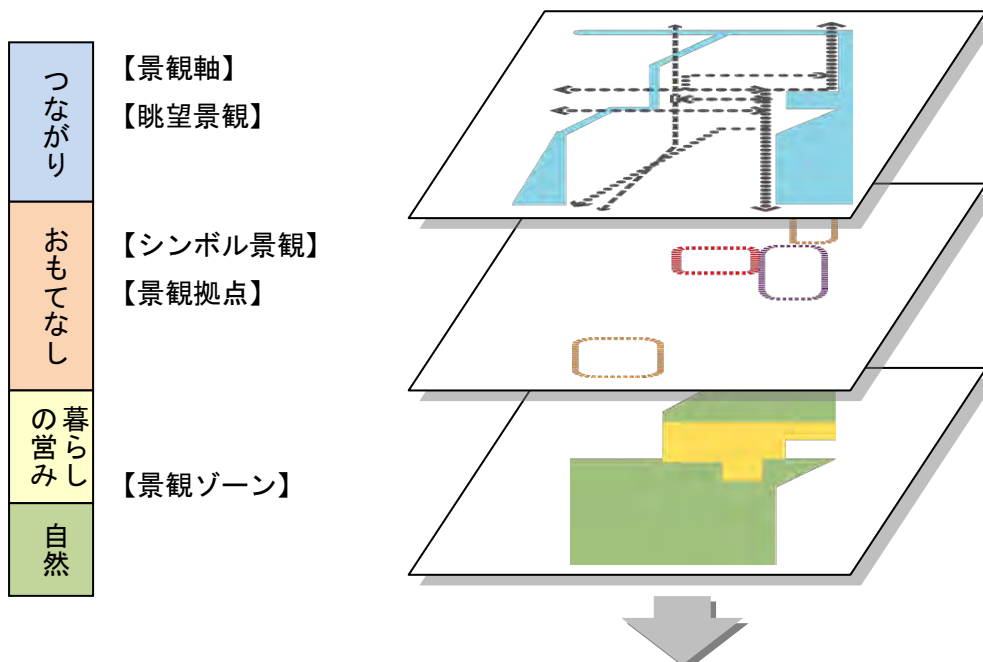
■自然と暮らしの風景が調和し、地域が「つながる」景観づくり

マリンタワーや丘陵地から見下ろす海と街なみ、周辺の山々の融合する眺望は、大洗町が誇る雄大な景観です。自然風景の中に、人々の暮らしが馴染み、地域全体で楽しめる景観づくりを進めます。また、景観は、暮らしそのものの姿であり、町民一人ひとりがつくっていくものであるという認識に立ち、観光の町としてのおもてなしの心を持って、町民や企業との協働によるルールづくりや景観形成活動に取り組みます。

3. 町の景観構造

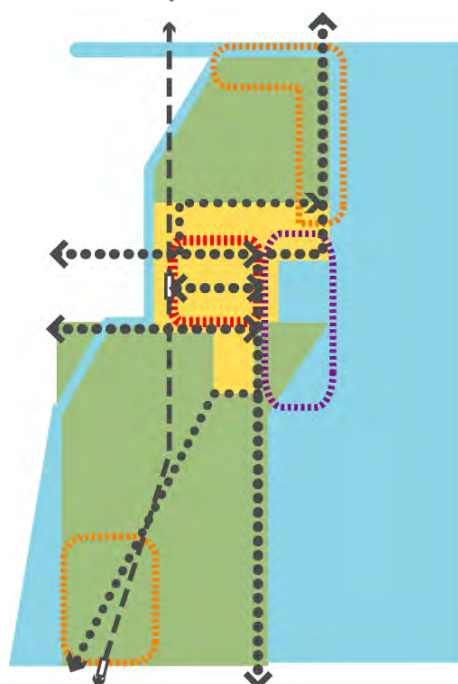
「自然」「暮らしの営み」「おもてなし」「つながり」という視点に立ち、大洗町の景観の基本的な構造をみると、次のように整理されます。

景観の基本的な構造		特 徴
つながり	⇔景観軸	地域をつなぎ、景観形成上重要となる幹線道路や河川、臨海部など
	▽眺望景観	海岸や高台から海や街、山並み等を眺めるときに得られる良好な景観
おもてなし	◎シンボル景観	地域のシンボル、景観形成に重要な景観の核
	◇景観拠点	町の中心、産業又は観光の場となり、町の顔となる景観
暮らしの営み	□景観ゾーン	共通の景観特性を持つ、まとまりのある地域
自 然		



■大洗町の景観構造

- 「自 然」 自然景観ゾーン
- 「暮らしの営み」 市街地景観ゾーン
- 「おもてなし」
 - 中心拠点
 - 産業観光拠点
 - 観光拠点
- 「つながり」
 - 景観軸（水系）
 - 景観軸（道路）
 - 景観軸（鉄道）



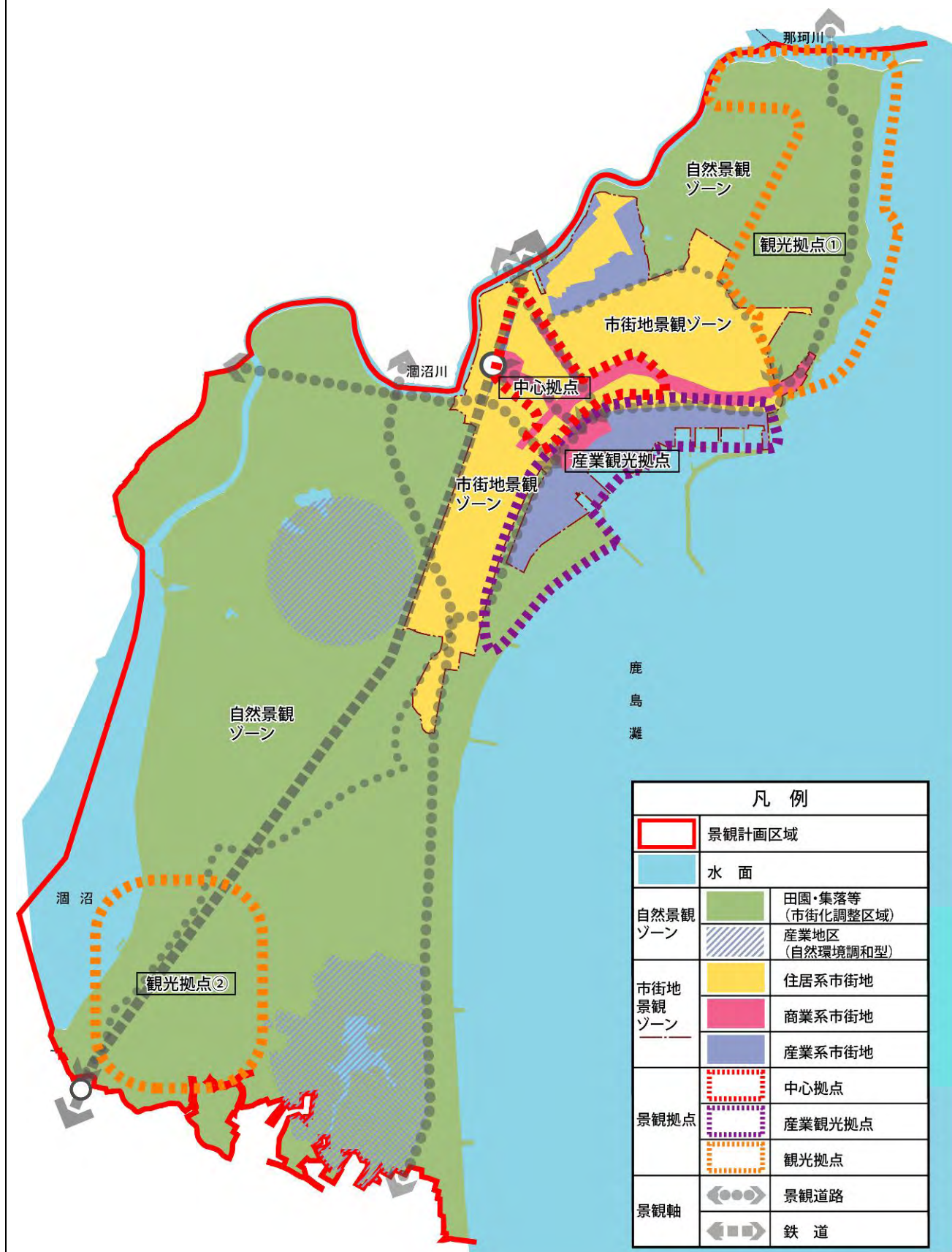
4. 景観ゾーン・景観拠点・景観軸の設定

まずは、景観ゾーンと景観拠点を設定します。景観ゾーンは、大洗町の景観のベース（下地）となるものであり、「自然景観ゾーン」と「市街地景観ゾーン」を設定します。また、景観拠点は、訪れる人を迎える「おもてなし」の舞台として、「中心拠点」と「観光拠点」、「産業観光拠点」を設定します。

■景観ゾーン・景観拠点・景観軸の設定

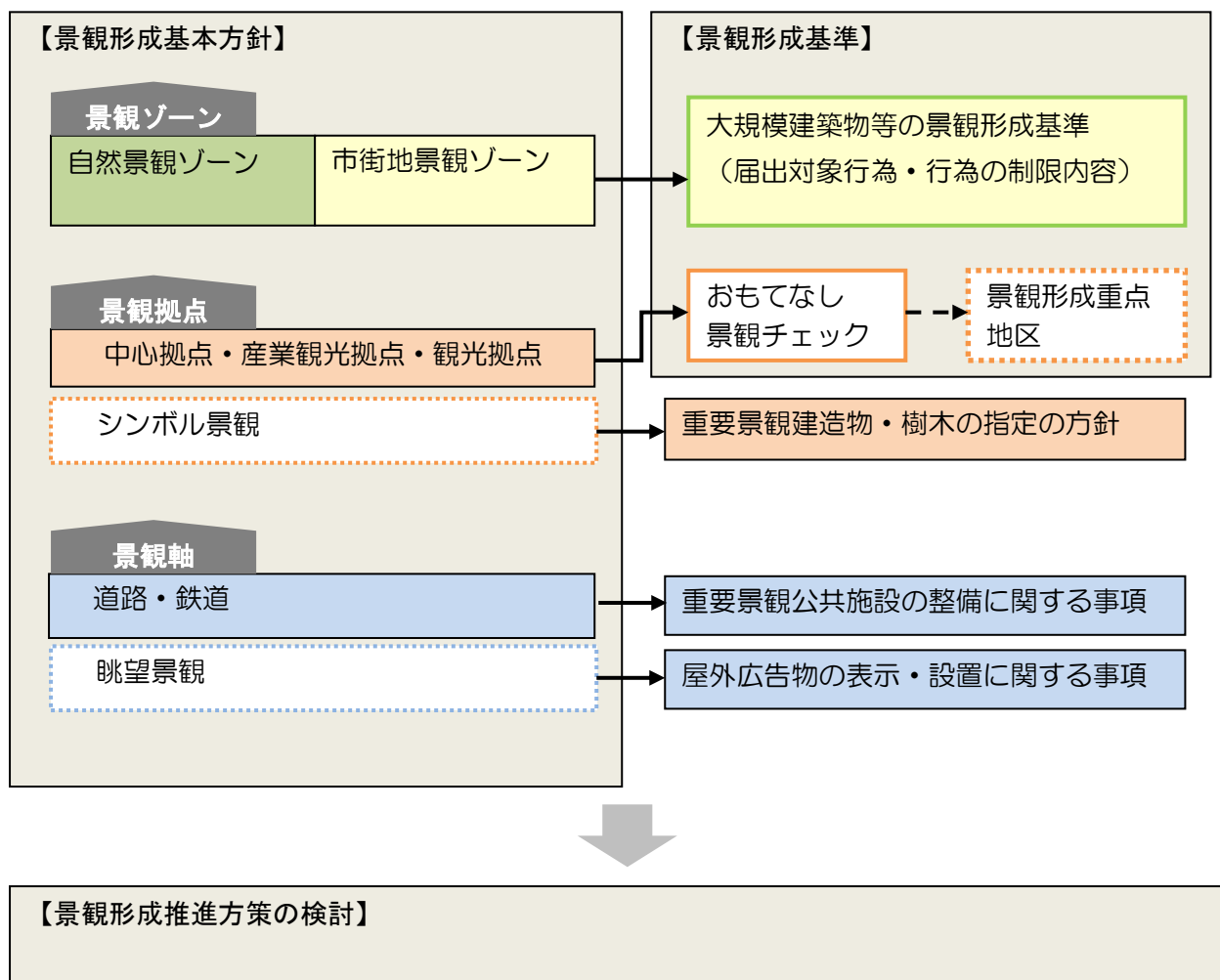
景観構造		位置づけ	
景観ゾーン	景観拠点		
自然	自然景観ゾーン	海岸沿いの松林や斜面緑地が良好な景観を創出するゾーン。 涸沼周辺に広がる水田の良好な田園景観、丘陵部に昔ながらの集落が発達し、良好な集落景観を保持するゾーン。 緑に囲まれた産業地区で、自然環境との調和を図るゾーン。	
		おもてなし	観光拠点① 【大洗海岸公園周辺】 大洗海岸公園を中核として、大洗磯前神社などの歴史・文化スポットと、アクアワールド大洗水族館などの海のレクリエーションスポットとが、海の眺望と連続する松林とで結ばれた、大洗の歴史・文化・自然を満喫できる拠点。
			観光拠点② 【総合運動公園・涸沼周辺】 総合運動公園を中核として、谷津や斜面緑地、農地、涸沼などの自然環境に触れながら、スポーツやレクリエーション活動が楽しめる拠点。
暮らしの営み	市街地景観ゾーン	住宅や生活サービス施設を中心に発達し、町の生活基盤となるゾーン。 中心となる低地部には、住宅や商業、水産物の加工所等が混在し、海のまちの暮らしが息づき、台地上には、整備された住宅地や沿道サービス施設が広がるゾーン。	
		おもてなし	中心拠点 【市街地中心部】 大洗駅周辺を中核として、観光機能や地域生活サービス機能が集積し、人・もの・情報が交流する拠点。町・海への玄関口として、大洗町の顔となる拠点。
			産業観光拠点 【臨港地区周辺】 魚市場やフェリーターミナル、大洗海浜公園等を中核として、まちの活力を生み出す産業とレジャーが複合し、交流を楽しめる拠点。
つながり	景観軸	海岸線を走り、海の眺望をアピールする主要道路。又は、町外から海又は中心部にお出迎えするための道路又は鉄道。	

■大洗町景観ゾーン・景観拠点・景観軸



大洗町景観計画では、景観の基本的な構造を踏まえて、次のような流れで基本方針、景観形成基準を設定します。

■大洗町景観計画の構成



5. 景観形成基本方針

(1) 景観ゾーンの基本方針

■自然景観ゾーン

【景観特性】

- ・東側は海、北側は那珂川、西側には涸沼、涸沼川と、町全体が水辺に囲まれています。
- ・水辺と陸の間には、町を取り囲むように斜面緑地が発達しています。特に、海岸沿いの松林は町の景観の大きな特色となっています。
- ・町域北部は、緑豊かな丘陵部の集落と農地となっています。二葉地区は、高台における新たな土地利用を図る地区として位置づけられています。
- ・町域南部は、涸沼及び涸沼川沿いの低地に水田地帯が広がり、斜面緑地を背に、集落が形成されています。丘陵地には、畑や屋敷林、生け垣の緑に囲まれた、伝統的な農家集落の風景が残っています。
- ・町域南部には、原子力関係の研究施設群や、新たな産業基盤の形成を図る大貫台地区があります。



大洗海岸と斜面緑地の景観



涸沼沿いの水田と集落

【景観形成の課題】

- 大きな景観資源である海や涸沼、那珂川・涸沼川などの水辺については、景観を阻害する恐れのあるゴミ、看板・広告などの環境美化対策や、建築物等との調和が必要となっています。
- 緑地は景観だけでなく、防災上も重要である一方、松林の立枯れなどは大きな課題となっています。
- 町域北部は、従来からの集落と緑の景観を守りながら、今後新たに進められる土地利用の景観との調和を図ることが必要です。
- 町域南部は、生産の場である水田や畑等の農地を、景観資源として保全していくことが必要です。また、伝統的な集落景観を守るため、屋敷林や生け垣等の緑の保全が課題となります。
- 原子力関係施設や大貫台の産業地区は、自然環境の中に立地しており、周辺環境への配慮が必要です。

【景観形成方針】

広大な水辺と緑、集落環境が調和する自然景観の保全

- 水辺の環境美化を進めるとともに、大規模な建築物等との調和を図り、水辺の景観を保全します。
- 松林や斜面緑地の保全に努め、緑の連続する景観（スカイライン）の維持を図ります。大洗町の代表的な景観でもある松林については、関係団体と連携し、枯松の伐採や保全、植栽に努めます。
- 町域北部では、従来の集落景観の保全を図るとともに、住環境整備に際しては、周辺の景観と調和するよう、緑あふれる居住環境の形成を図ります。
- 町域南部では、涸沼周辺に広がる広大な水田と集落が調和する景観の維持・保全を図ります。丘陵部の畑と、生け垣や屋敷林等の緑に囲まれた集落景観の維持・保全を図ります。
- 原子力関係施設や大貫台の産業地区は、周辺の樹林に調和した建物や工作物の形成を図ります。

■市街地景観ゾーン

【景観特性】

- ・低地部には昔ながらの商業と住宅、水産加工施設や民宿等が混在し密集する街並みが形成され、古い建物の佇まいや路地空間が、海のまちの懐かしい暮らしの風景を残しています。
- ・内陸の丘陵地には、比較的新しい住宅地が形成されています。県道水戸鉾田佐原線沿いは沿道サービス施設が立地し、五反田地区の一部には工場等が混在しています。
- ・住宅地に隣接して古墳があり、歴史的資源としてだけでなく、高台から海や山々を眺めるビュースポットとなっています。
- ・駅西側の桜道地区は、涸沼川沿いの低層住宅地で、釣り舟の浮かぶ涸沼川の風景を楽しめます。



商住が混在する街並み



沿道サービス施設の立地

【景観形成の課題】

- 低地部は、懐かしい暮らしの風景を活かしつつ、津波等の防災面での配慮が必要となっています。近年は、治安や環境美化の点から、空き家等の増加も課題となっています。
- 内陸の丘陵地は、観光拠点への入り口ともなる県道水戸鉾田佐原線沿いの沿道サービス施設の景観誘導や、一部に集積する工場と住宅地との調和が課題となっています。
- 高台の眺めは、地元の人を楽しむだけでなく、おもてなし資源として活かす工夫が必要です。
- 駅西側の桜道地区は、涸沼川沿いの眺めを楽しめる桜道公園を活かす工夫が必要です。

【景観形成方針】

海辺の暮らしの営みと緑、眺めが調和する市街地景観づくり

- 低地部の商住が複合する地区については、防災面に配慮した適正な土地利用の誘導や空き家対策に取り組む一方、周辺の街並みとの調和や、路地空間・海の眺め等に配慮し、大洗町の特徴を活かした街並み形成を図ります。
- 高台については、閑静な住宅地環境を保全するため、生け垣や植栽を推進し、緑豊かな景観形成を図ります。住宅地に隣接する工場等の施設については、周辺景観への配慮や植栽等を推進し、住環境の保全を図ります。県道水戸鉾田佐原線沿いについては、観光拠点への入り口として良好な沿道景観を形成するため、植栽・花壇の推進や、広告・看板の大きさや色彩などの誘導を図ります。
- 車塚古墳・日下ヶ塚古墳周辺をはじめとする高台の中でも眺めの良い場所については、海と街並み、山並みといった眺めを楽しめる視点場の整備とともに、周辺景観の保全や案内などのアクセス向上を図ります。
- 桜道公園周辺は、涸沼川沿いの景観の保全とともに、大洗駅からの歩行者ネットワークを強化し、水辺に親しむ空間づくりを図ります。

(2) 景観拠点の基本方針

■観光拠点①【大洗海岸公園周辺】

【景観特性】

- ・大洗海岸は、大洗海水浴場から平太郎浜に続く岩礁が名勝指定されており、地球科学的にも重要かつ珍しい景観を含んだ観光地域として「日本ジオパーク」に認定されています。
- ・大洗海岸公園やゴルフ場は松林を中心とした良好な緑地となっており、県道大洗公園線沿道は松林と海が続くまちの象徴的な空間を形成しています。
- ・神磯の鳥居周辺や、大洗磯前神社の大鳥居は、町を代表する景観スポットとなっています。大洗海岸公園、大洗海水浴場、アクアワールド大洗といった観光スポットも集積しています。
- ・那珂川及び涸沼川に面した崖地は、景勝地「巖船の夕照」を生み出しています。那珂川の手門橋は景観シンボルであるとともに、河口周辺は一里塚ロードパーク、水辺プラザとして整備されています。
- ・大洗磯前神社の門前には、旅館街が形成されており、電線地中化が進められています。また、その他にも海沿いには観光・宿泊施設が点在しています。



磯前神社門前の旅館街（宮下地区）



県道大洗公園線沿道の松林と海

【景観形成の課題】

- 大洗海岸は、地域を代表する景観であり、今後も貴重な景観を後世に継承していくことが必要です。
- 大洗海岸に続く松林の風景は、重要な景観資源である一方、松林の維持・保全が課題となっています。
- 神磯の鳥居や大鳥居などは、観光資源として今後も活かしていくため、文化財などとしての歴史的価値だけでなく、景観シンボルとしての価値を評価し、維持・保全を図る必要があります。
- 那珂川河口周辺は、既に視点場となっている空間を活かしつつ、「巖船の夕照」や願入寺の参道などの周辺の資源との連携が課題となっています。
- 旅館街をはじめ、海岸沿いの大型の観光・宿泊施設については、観光空間としての街並み形成や海岸沿いの景観との調和が課題となっています。

【景観形成方針】

海の自然景観と歴史・文化を満喫できる観光景観づくり

- 大洗海岸の貴重な景観を維持するため、ゴミのない美しい海岸づくりに努めるとともに、大規模な建物や看板等が海辺の自然景観に調和するよう、景観誘導を図ります。
- 大洗海岸公園やゴルフ場の緑と海の調和する風景を守り活かすため、松林の維持保全を図ります。
- 神磯の鳥居や大鳥居は町の景観シンボルであり、これらの資源の保全を図るとともに、その見え方や調和に配慮した周辺の街並み・景観形成を図ります。
- 那珂川の眺望や斜面緑地を保全するとともに、祝町地区に点在する文化財等の資源を保全し、有機的に結ぶ新たな回遊ルートの創出により資源の活用を図ります。
- 宮下地区については、電線地中化に合わせて、観光旅館街にふさわしい魅力ある街並み・景観形成を図ります。

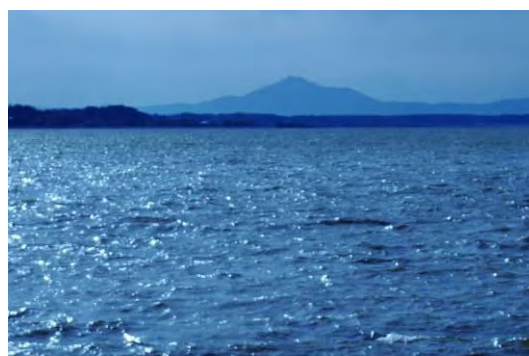
■観光拠点②【総合運動公園・涸沼周辺】

【景観特性】

- ・涸沼周辺の松川地区は、ヤマトシジミなどの漁業と農業により発達した集落です。地区北側には、江戸時代中期～末期の遺構である守山藩松川陣屋跡があります。また、汽水湖である涸沼は、平成 27 年 5 月にはラムサール条約湿地に登録され、涸沼の自然環境が国際的にも認められました。近年では、涸沼の環境を活かし、カヌー教室などの体験型観光も行われています。
- ・松川漁港からは、対岸の広浦（茨城町）の風景が見渡せます。南西方向には筑波山の山並みが広がり、特に夕暮れの風景は美しく、町の景勝地となっています。県道大洗友部線の一部からは、涸沼や松川集落の眺望が良く、良好な視点場となっています。
- ・丘陵部にはスポーツの拠点となる大洗総合運動公園があり、周辺の自然豊かな環境と一体となった新たな景観を形成しています。
- ・涸沼沿いの田園地帯には大洗鹿島線が走り、地区南側の銚田市との境界には涸沼駅があります。



大洗友部線から見える涸沼と松川集落



松川漁港から見える筑波山の山並み

【景観形成の課題】

- 松川地区については、現在の汽水特有の自然環境や緑豊かな集落景観を保全しながら、自然資源や歴史資源を活かして、地域を活性化することが必要です。
- 涸沼越しに見える筑波山の山並みや湖岸の美しい風景は、観光資源として認識し、景観まちづくりに活かす工夫が必要です。
- 丘陵部にある総合運動公園は周辺の自然環境への調和とともに、涸沼沿いの自然環境と連携した景観まちづくりが必要です。
- 田園風景の中に走る大洗鹿島線の風景も、この地域の特色として保全し活かしていくことが必要です。

【景観形成方針】

涸沼の自然と交流を楽しめる観光景観づくり

- 松川地区では、涸沼の水辺、緑地、農地、集落等が調和する景観の維持・保全を図るとともに、涸沼の自然、歴史・文化、暮らしを伝え、周辺景観を活かす観光・交流拠点の整備を図ります。
- 松川漁港周辺や、県道大洗友部線沿いなどを活用し、涸沼や筑波山の風景を眺め、楽しむことができる視点場づくりを進めます。
- 涸沼の水辺、総合運動公園、涸沼駅などの資源が連携し、周辺を回遊できる散策コースなどの環境整備を図ります。
- 涸沼駅周辺は、涸沼観光の入り口として周辺の自然風景に調和する景観を保全します。

■中心拠点【市街地中心部】

【景観特性】

- ・大洗駅前には、海への玄関口として、水族館のモニュメントや波を連想させる自転車置き場などが整備されています。
- ・津波避難道路を兼ねたシンボルロード、(都)駅前海岸線の整備が進められています。
- ・海岸に並行する旧街道沿いの商店街と住宅地とで構成され、昔ながらの街なみや路地を残しています。
- ・町の中の景観資源として、登録文化財等の歴史的な建物が点在しています。また、近年では、大洗町を舞台としたアニメの影響により、街なかを回遊する来訪者も増えています。
- ・大洗港に面して建つマリントワーは町のランドマークとなっており、街なかの懐かしい風景から垣間見えるタワーが、新旧のコントラストを醸し出しています。



水族館のサインが海の町らしい大洗駅



登録文化財「武石家住宅」

【景観形成の課題】

- 海の町の玄関口にふさわしい駅前空間づくり、海へのアクセス向上が課題となっています。
- (都)駅前海岸線の整備にあわせ、街なかと観光施設との回遊が必要です。
- 商店街では、老朽化した建物や空き店舗等が多く、景観や街並みの維持が課題となっています。
- 登録文化財やアニメなどの景観・観光資源とともに、商店街や路地等の懐かしい風景を賑わいづくりに活かす工夫が必要です。
- 町のランドマークであるマリントワーの見え方に配慮した街並みづくりが必要です。

【景観形成方針】

駅と海をつなぎ町の顔となる魅力ある街並み・景観づくり

- 駅前広場の改修や商業業務利用を促進し、町の玄関口としてふさわしい魅力的な街並みの形成を図ります。
- (都)駅前海岸線沿道について、避難路としての安全性を確保するとともに、海の町をイメージさせる道路空間形成を図ります。駅から海へとつなぐ、楽しく賑わいのある沿道の街並み形成を図ります。
- 空き家や空き店舗の適切な維持管理や利活用を図るとともに、駐車場やゴミ置き場等について、景観に配慮するよう誘導し、環境美化を図ります。
- 街の中に点在する文化財や路地、アニメなどの資源を活かし、訪れた人が楽しめるような休憩施設やおもてなし空間づくりを進めます。商店街の懐かしさを活かす街並みづくりを進めます。
- 町のシンボルである海やマリントワーの見え方に配慮し、景観誘導や視点場づくりを進めます。

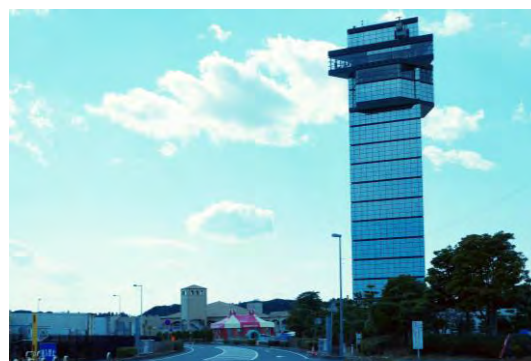
■産業観光拠点【臨港地区周辺】

【景観特性】

- ・魚市場周辺には水産加工施設が集積しています。周辺には、直売所や飲食店が集まり、目の前に広がる漁港とともに、干物を干す風景など海の町大洗の特徴的な景観となっています。
- ・大洗フェリーターミナル周辺の港中央地区は、物流拠点が集積し、ターミナルに向かう沿道には緑地が配置され、整った街並みが形成されています。夜景が美しく、町の観光スポットとなっています。
- ・県道水戸鉾田佐原線沿いは、マリンタワーをはじめ、周辺には大洗リゾートアウトレット、大洗わくわく科学館等の観光資源が集積し、町の新たな景観を形成しています。
- ・大洗海浜公園周辺は、大洗サンビーチ、大貫海岸と続く海水浴場で、スポーツ・レクリエーションの拠点となっています。砂浜が広がり、そこからみえる街並みや斜面緑地も印象的です。周辺には民宿などの宿泊施設が集積しています。



魚市場周辺の直売所・飲食店



マリンタワー・アウトレット周辺

【景観形成の課題】

- 漁港・魚市場周辺は、暮らしの営み空間であるとともに、直売所や飲食店が集まり、観光資源としても重要な場所であることから、賑わいのある魅力的な空間づくりが必要です。
- 大洗フェリーターミナル周辺は、物流拠点であるとともに、町の観光資源が集積する重要な場所であり、海の玄関口としてふさわしい街並みづくりが必要です。
- 県道水戸鉾田佐原線沿いは、海岸沿いの軸としてふさわしい景観形成を図る必要があります。
- 大洗海浜公園周辺は、今後、観光レクリエーションの場として観光誘客対策の強化が期待されていることから、賑わいのある景観形成が必要です。

【景観形成方針】

海の玄関口として賑わいと港らしさを感じる街並み・景観づくり

- 魚市場周辺は、水産業加工施設などの適切な景観誘導を図るとともに、漁港の賑わいと魅力のある観光景観の形成を図ります。
- 大洗港、フェリーターミナル周辺は、港らしさを感じることができる視点場や歩行空間の整備を進め、海の玄関口にふさわしい美しく整った景観形成を図ります。
- 県道水戸鉾田佐原線沿いは、海辺の玄関口として風景を維持するため、屋外広告物などの景観誘導を図るとともに、市街地との緩衝帯として松林の維持保全を図ります。
- 大洗海浜公園周辺には、海辺の魅力を向上するため、自然景観に調和した新たな観光誘客施設を誘致し、海辺を楽しむ賑わい景観づくりを図ります。

(3) 景観軸の基本方針

■景観軸【景観道路・鉄道】

【景観特性】

- ・海岸沿いには、南北に、県道大洗公園線、県道水戸銚田佐原線、国道 51 号が縦断しており、海を眺めながら観光地を走る道路となっています。沿道には、海岸沿いの傾斜地に発達した斜面緑地や松林が続いています。
- ・町外から涸沼川を渡り、町の中心部や海にアクセスする道路として、県道水戸銚田佐原線と（都）若見屋平戸線を結ぶ軸、県道長岡大洗線があります。また、大洗駅から海を結ぶ町のシンボルロードとして、（都）駅前海岸線の整備が進められています。
- ・町域中央部の市街地から南部にかけては、鹿島臨海鉄道大洗鹿島線が縦断しています。
- ・河川の橋梁や海辺の高架道路・田園を走る高架鉄道等の構造物は、自然の中で存在感を示しています。



国道 51 号沿いに続く海岸と松林



田園地帯を走る鹿島臨海鉄道大洗鹿島線の高架橋

【景観形成の課題】

- 海岸沿いの景観道路は、町外からの観光客や訪問客の目に触れる最も重要な軸であることから、沿道利用も含めて、海辺の景観や自然環境に配慮した美しい道路空間づくりを進めることが必要です。
- 町外からのアクセス道路については、町の入り口であることから、沿道の施設案内の広告・看板なども多く、環境美化への配慮が必要です。
- 鹿島臨海鉄道大洗鹿島線については、通勤通学の手段であるとともに、水戸方面から海の観光スポットへと導く重要な公共交通機関であり、沿線景観を活かし誘客を図ることが必要です。
- 橋梁や高架道路・鉄道等の大規模な構造物は、見え方の工夫や沿線景観への配慮等の検討が必要です。

【景観形成方針】

沿道・沿線の自然景観を活かし、観光客をお迎えする景観軸づくり

- 海岸の景観道路については、海の景観や周辺の緑などの環境に調和する色調や素材に配慮した道路空間づくりを進めます。沿道については、斜面緑地や松林の維持保全を図るとともに、大規模な建物や看板等が海辺の自然景観に調和するよう、景観誘導を図ります。
- アクセス道路については、涸沼川を渡り町に向かう景観を保全し、広告・看板の誘導やごみの散乱防止など環境美化に努めるとともに、観光客を導くサインや花壇作りなどの景観づくりを進めます。
- 鹿島臨海鉄道大洗鹿島線の沿線景観については、沿線の田園景観の保全とともに、田園景観を活かし訪れる人が楽しめる空間づくりに努めます。
- 橋梁や高架道路・鉄道等の大規模な構造物は、色彩や周辺の緑化等により圧迫感・威圧感の軽減に配慮するとともに、周辺の街並みや自然景観との調和に努めます。

■シンボル景観・眺望景観

【景観特性】

- ・町民に対するアンケート調査によると、神磯の鳥居、大洗磯前神社、大鳥居等の歴史・文化的な構造物と、大洗港・フェリーターミナルや大洗マリンタワーといった人工的な構造物が、「大洗町らしい景観」として上位にあげられています。
- ・眺望景観については、台地際から眺める街並みと海や川等の水辺との調和、時間の変化による風景（朝日、夕日、夜景）などがあげられています。



【景観形成の課題】

- シンボル景観については、多くの人が大洗町の象徴と感じており、観光資源としても重要となっていることから、今後も、これらの景観を維持するための方策が必要です。
- 眺望景観については、町民自慢の風景ではあるものの、来訪者に対してはあまりPRされておらず、多くの場合アクセスすることも困難であることから、今後は景観資源としての活用方策が必要です。

【景観形成方針】

大洗町の良さをPRするシンボル景観・眺望景観の保全と活用

- 大洗町らしいシンボル景観や眺望景観等、大洗町を象徴する景観資源については、個々の景観資源が有する価値の維持・保全を図ります。
- 大洗町らしいシンボル景観や眺望景観等の魅力を最大化するため、当該景観を眺める「視点場」の整備を図るとともに、景観資源の見方や価値等に関する情報提供を行います。

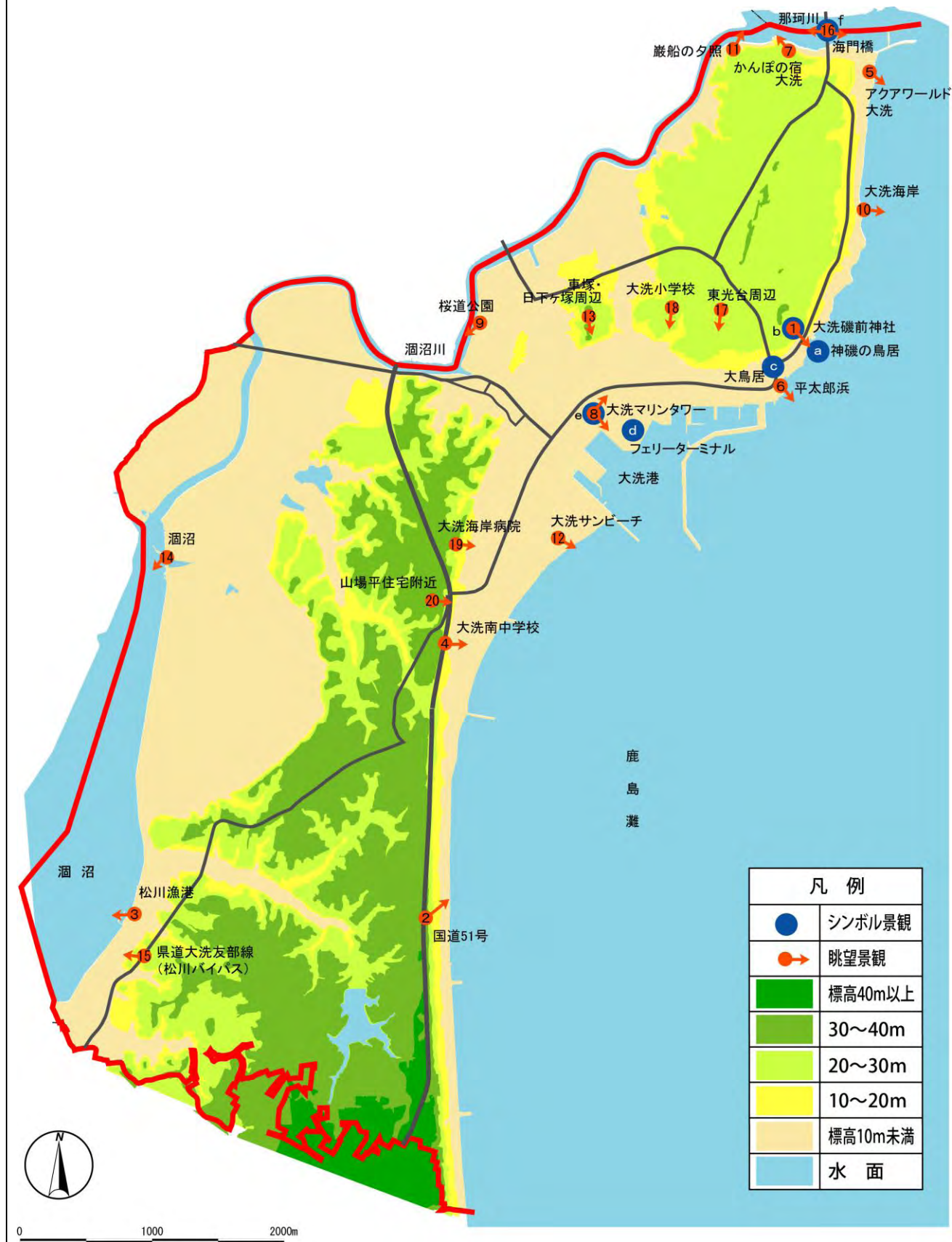
大洗町らしい景観（シンボル景観）

a	神磯の鳥居
b	大洗磯前神社
c	大鳥居
d	大洗港・フェリーターミナル
e	大洗マリンタワー
f	海門橋

眺めの良い場所（眺望景観）

1	大洗磯前神社
2	国道51号
3	松川漁港
4	大洗南中学校
5	アクアワールド大洗
6	平太郎浜
7	かんぼの宿大洗
8	大洗マリンタワー
9	桜道公園
10	大洗海岸
11	巖船の夕照
12	大洗サンビーチ
13	車塚・日下ヶ塚周辺
14	涸沼
15	県道大洗友部線（松川バイパス）
16	海門橋
17	東光台周辺
18	大洗小学校
19	大洗海岸病院
20	山場平住宅付近

■景観眺望点・視対象



6. 景観形成重点地区の設定

(1) 景観形成上重要な地区（景観形成重点地区）

景観計画区域において、特に大洗町らしく美しい景観の形成に向けて、重点的かつ先行的に景観の整備を図る必要がある地区については、「景観形成重点地区」として設定します。

重点地区を設定するにあたっては、景観形成基本方針を踏まえ、おもてなし空間の形成を目指す「景観拠点」の中でも、大洗町の顔として特に景観形成の重要性・緊急性が高いと考えられる「駅前海岸線沿道地区」「宮下地区」を重点地区とし、本計画に位置づけます。

なお、他の重点候補地区については、景観形成に対する地区住民等との協議や具体的な取り組みの熟度に応じて、景観形成の方針や基準を本計画に位置づけます。(⇒資料編参照)

景観形成重点地区	地区の概要
①駅前海岸線沿道地区 【中心拠点】	駅前海岸線は、「中心拠点」に位置し、観光客で賑わう臨海部の茨城港大洗港区周辺と玄関口である大洗駅周辺を結ぶ重要な幹線道路です。中心市街地の交通混雑の緩和と津波緊急避難路の確保を目指し、東日本大震災からの復興シンボル道路として早急な整備が予定されており、これに合わせ、シンボルロードとしてふさわしい沿道街なみ景観形成を図ることが求められています。
②宮下地区 【観光拠点①】	宮下地区は、「観光拠点①」に位置し、県道大洗公園線に沿ってホテル、旅館、飲食店等が立地する宿泊観光エリアで、町の代表的な景観となる大洗磯前神社の門前にあたる区域です。平成20年3月には「宮下地区まちなみ景観整備基本計画」が策定され、電線地中化による道路景観整備が進められており、今後、大洗町の景観形成を図るうえで重要な地区です。

■景観形成重点地区

